

2 秩父宮訪独問題

366

昭和12年2月18日

林(銑十郎)外務大臣より
在英国吉田大使他宛

英国国王戴冠式出席のため渡英する秩父宮雍

仁親王および同妃の旅程につき通報

付記

昭和十二年二月六日付山縣(武夫)宮内省式部

職外事課長より日高(信六郎)人事課長宛覚書

秩父宮の訪独をヒトラーが要望している旨在

本邦独国大使より通報について

人機密合第二〇七號

昭和拾貳年貳月拾八日

外務大臣 林 銑十郎

在英国

特命全權大使 吉田 茂殷

(以下宛先省略)

秩父宮同妃兩殿下御渡英ニ關スル件

本年五月英國皇帝皇后兩陛下ノ戴冠式御舉行ニ付

天皇陛下ニハ御名代トシテ秩父宮殿下ヲ差遣ハサレ且妃殿

下御同伴相成ヘキ旨御沙汰有之タルニ付殿下ニハ本年三月十八日横濱出帆ノ平安丸ニテ御出發、同二十九日晚香港御着、「カナダ」政府ノ御歡待ヲ受ケサセラレ、四月五日「オタワ」御發、便船ノ御都合上同月七日紐育ヨリ「クイーン、メリー」號ニテ御渡英、公式御入京迄「ブライトン」ニ御滞在遊ハサルヘク又戴冠式後ハ暫時英國ニ御滞在、歐洲大陸各地御巡歴ノ後十月中旬紐育御着、夫レヨリ十一月中旬桑港御發迄四週間以内御滯米ノ御豫定ナル趣ノ處戴冠式後ニ於ケル御旅程ハ御着英後御決定相成ヘキ趣ニ付御決定ノ上ハ隨員ヨリ何分ノ儀貴官ヘ御通知相成ヘキ様依頼シ置キタルモ貴官ニ於テモ隨員又ハ最寄帝國公館ト連絡ヲ保チ兩殿下貴管下御滞在又ハ御通過ノコトト相成タル節ハ御警衛其ノ他御視察等諸事不都合無之様精々御注意相成度シ兩殿下ニハ英國及「カナダ」ニ於テ皇室及政府ヨリ公式ノ御待遇ヲ受ケサセラルル期間ヲ除キ非公式(unofficial)ニ皇族トシテ御旅行アラセラルヘク從テ御歴訪諸國ノ元首トノ

御會見ノ如キモ先方ノ都合次第ニテ強テノ御希望ハ無之儀
ト諒承相成度趣ナリ尙旅券ハ兩殿下ヘハ差上ケサルヘキモ
隨員ニ對シテハ總テ外交旅券ヲ下付スル筈ナルニ付右併セ
テ御承知置相成度此段申進ス

追テ兩殿下ノ隨員ハ別紙ノ通ナル處富井參事官ハ英國以
外ヘハ隨行セサルヘク又本間陸軍少將、新見海軍少將其
ノ他數名ハ英國ニ於テ戴冠式諸儀終了後幾モナク歸朝致
ス趣ニ付爲念申添フ

本信宛先 英、佛、獨、伊、白、蘭、瑞西、瑞典、「ホ
ーランド」、「フィンランド」、倫敦、漢堡、
「リヴァプール」、「アンヴェルス」、里昂、
馬耳塞、未蘭、壽府
米、紐育、桑港、「ホノルル」、「ロス、ア
ンゼルス」、「シカゴ」、「ニュー、オルレア
ンス」

(別 紙)

秩父宮同妃兩殿下隨員

式部長官 子爵 松平慶民

Viscount Yoshitami Matsudaira, K.C.V.C., C.B.E., Grand Master
of the Ceremonies to H.I.M. The Emperor.

大使館參事官 男爵 富井周

Baron Shu Tomii, Counsellor of the Embassy.

宮内事務官兼式部官 伯爵 前田利男

Count Toshio Maeda, Private Secretary to H.I.H. Prince

Chichibu.

陸軍少將 本間雅晴

Major-General Masaharu Homma, M.C.

海軍少將 新見政一

Rear-Admiral Masaichi Niimi.

皇族附武官 山口貞男

Captain Sadao Yamaguchi, Equerry to H.I.H. Prince Chichibu.

式部官 男爵 吉川重國

Baron Shigekuni Kikkawa, Master of the Ceremonies to H.I.M.

The Emperor.

秩父宮御用取扱 山座賤香

Madame Shizuka Yamaza, Lady-in-Waiting to H.I.H. Princess

Chichibu.

宮内屬 澁谷忠治

Mr. Chuji Shibuya, Clerk, Imperial Household.

同 溝口三郎

Mr. Saburo Mizoguchi, Clerk, Imperial Household.

式部職歐文寫字生 八木下義智

Mr. Yoshisato Yagishita, Typist, Imperial Household.

外二侍女二名

Miss....., Lady's Maid to H.I.H. Princess Chichibu.

非公式隨員

陸軍軍醫少將 中村順一

Surgeon Major-General Jun-ichi Nakamura.

編注 戴冠式に際しての日本政府祝意表明については、本書

第44文書参照。

(付記)

昭和十二年二月六日

式部職外事課長 山縣 武夫
外務大臣官房人事課長 日高 信六郎殿

(欄外記入)

二月五日 獨國大使ヨリ本官へ

ヒトラ一總統ハ秩父宮同妃兩殿下歐洲御巡歴ノ際獨國ニ御來訪ヲ希望シ其節ハ總統ノ賓客トシテ御款待申上度旨申出タリ

同 六日 本官ヨリ獨國大使へ

殿下ハ總統ノ厚意ヲ感謝アラセラル、御旅程ハ着英後御決定ニ付只今ノ處確答ハ留保セサルヲ得ス

トノ旨ヲ傳フ

尙御訪獨ノコトトナラハ駐獨帝國大使ヲ通シ貴國政府ニ報知スヘキコトヲ附言シ置ケリ

右爲參考駐獨大使へ書信ヲ以テ内報方御取計相成度

(欄外記入)

本件ニ關シテハ予メネーベル參事官ヨリ日高人事課長ニ對シ電話ニテ本國來訓ノ次第内報アリ日高ヨリ右ノ次第ヲ山縣式部官ニ通シタル結果下記ノ往復アリタル次第也

~~~~~

367

昭和12年2月27日 在独国武者小路大使より  
林外務大臣宛(電報)

日独防共協定締結後最初の日本皇族訪問とし  
て秩父宮來訪を独國が重視している旨報告

第七四號

ベルリン 2月27日後発  
本省 2月28日前着

英帝戴冠式終了後秩父宮殿下歐洲大陸御旅程ニ關シテハ目下其ノ筋ニ於テ折角御立案中ノコトト拜察スル處當方トシテハ獨逸側カ日獨協定後最初ノ日本皇族殿下ノ御訪問ナル關係モアリ大イニ意氣込ミ居ル次第第二モアリ當國御來訪ニ當リテハ伯林、漢堡、「ライプチヒ」、「ミュンヘン」等少ク共右ノ主要都市ハ各特徴アル大都市ナルニ付是非御視察頂キ度ク尙御内定ノ節ハ折返シ御回電相成度シ

~~~~~

368

昭和12年5月5日
在英國吉田大使より
佐藤外務大臣宛(電報)

秩父宮の滞独日程は滞仏日程と懸隔がないよ
う配慮すべき旨意見具申

ロンドン 5月5日後発
本省 5月6日前着

第二五二號(館長符號扱)
往電第二五一號ニ關シ

秩父宮兩殿下御訪獨ニ先立チ佛國御訪問ノコトトナリタルニ對シテハ佛國政府ニ於テモ殿下ノ思召ヲ深く感謝シ居ル趣ノ處何分佛國ハ巴里數日ノ御滞在ニ過キササルニ比シ獨逸ハ約三週間ニ亘リ各地ヲ御歴訪遊ハサルコトト相成リ居ルニ付兩者ノ間ニ著シキ懸隔アリ獨逸御滞在カ比較的長期ニ亘ルハ主トシテ御見學ノ爲ニ有之又殿下ニ於カセラレテハ獨逸側ノ宣傳ニ對シ充分御警戒遊ハサレ居ル趣拜承シ居ルモ獨逸カ兩殿下ヲ大々のニ御歡迎申上クルト同時ニ殿下御訪獨ヲ利用シ自國ニ都合好キ宣傳ヲ露骨ニ行フニ至ルヘキハ現下ノ同國々際的地位竝ニ獨逸人從來ノ遣口ニ照ラシ推察ニ難カラス佛ニ比シ獨逸ニ餘リ長ク御滞在ハ如何カトノ懸念少カラス就テハ本件宮内大臣トモ御話合ノ上佛國御滞在ヲ長クセラルルカ獨逸御滞在ヲ短縮セラルルカ何レカニ東京ヨリ前電松平長官ノ電報ニ關聯シテ適宜電報御申越相成度シト存セラル

~~~~~

369

昭和12年8月21日  
 在独国武者小路大使宛(電報)

秩父宮の欧州各国歴訪は健康上取り止めとな

つたため独国単独訪問に当たっては然るべき

説明振り回示方訓令

本省 8月21日後10時30分発

第一六七號(至急)

貴電第三〇二號後段ニ關シ

兩殿下ニハ御健康ノ關係上各國御訪問ノ御豫定ハ勅裁ヲ經テ全部御取止メ遊ハサレ右ニ付テハ關係國政府ヘ通報ノ上既ニ宮内省ヨリ發表濟ノ次第モアリ此ノ際獨國ノミ御訪問ノコトニ御變更相成ルニハ種々困難ナル事情存スル次第ナル處御健康ニシテ御差支ナク且從來ノ成行ニ照シ他國側ニ對シ何等カノ説明ノツク方法(例ヘハ御歸朝ノ御順路ニ當ルト云フカ如キ)アルニ於テハ時局ニ顧ミ御訪獨遊ハサルル様奏請方取運ヒタキ當方ノ意嚮ナルニ付テハ何等右様説明ノツク方法アリヤ折返シ回電アリタシ(御歸朝御經路ハ公表セサルコトトナリ居ルモ「ケベツク」御上陸加奈陀御經由ノコトトナル見込ナリ貴使限り御含ミ迄)

370

昭和12年8月23日  
 在独国武者小路大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

秩父宮訪独に関する松平式部長官との協議結果について

ベルリン 8月23日後発  
 本省 8月24日前着

第三一四號

貴電第一六七號ニ關シ(秩父宮殿下御訪獨ニ關スル件)在「グリンデルワルド」松平式部長官ト打合セタルカハ御訪獨理由ハ瑞西ヨリ倫敦ヘ赴カセラルル途次ニ順路トシテ獨逸御通過ノ機會ニ三日乃至四日御滞在ノコトニ九月九日頃倫敦御着御希望ノ由ニ付大體九月三日頃御入獨八日頃御離獨ノコト  
 三其ノ間ノ御旅程ハ出來得ル丈ケ御微行ノコトトシ

四、以上三點ニ目安ヲ置キ委細ハ獨逸側トモ打合ノ上當方ニ於テ立案スルコト然ルヘシト存セラル

松平式部長官へ轉電セリ

~~~~~

371 昭和12年8月26日

広田外務大臣より
在独国武者小路大使宛(電報)

秩父宮訪独に当たつては健康に負担なきよう
交歓行事等にも十分留意方訓令

本省 8月26日後5時3分發

第一七三號(極秘)

往電第一六七號ニ關シ

兩殿下共御大患後ノコトトテ豫後充分御注意申上クルノ要アルハ申ス迄モナキ儀ナル處 陛下ニ於カセラレテモ兩殿下ノ御健康ニ付殊ノ外御軫念アラセラレ今次獨逸御通過ニ付テモ御健康ニ支障ヲ來ス如キ行事ナカルヘキコトヲ條件トシテ御聽許アラセラレタル趣拜聞セリ

就テハ貴使ハ以上ノ次第篤ト御含ミノ上今回ハ御歸朝ノ順路トシテ獨國御通過ノ建前ナルニモ鑑ミ獨國御滯在中ノ御交驩又ハ御歡迎ノ爲萬一二モ殿下ノ御健康ニ障ルカ如キコ

トトナラサル様十分御留意相成リタク尙獨逸側ニ對シテハ兩殿下トモ肺炎餘后^{豫之}ノ御靜養中ナルコトヲ打明ケ諸事御打合セ相成差支ナシ

尙又時局柄蘇聯ヲ刺戟スルカ如キコトヲ能フ限り避クルコトハ帝國政府既定ノ方針ナルヲ以テ此ノ際獨國側ニ於テ大袈裟ナル御歡迎ヲナシ又ハ種々宣傳ヲ行フ等ノコトアリテハ甚タ面白カラサルニ付テハ右御含ミノ上斯カルコトナキ様可然獨逸側ヲ指導方御配意アリタシ

瑞西へ轉電シ松平式部長官へ轉報セシメラレタシ

~~~~~

372 昭和12年8月27日

広田外務大臣より  
在独国武者小路大使宛(電報)

秩父宮の訪独日程案示方訓令

本省 8月27日後1時0分發

第一七七號(大至急、極秘)

往電第一七三號ニ關シ

當方ニ於テハ兩殿下ノ御健康上御差支ナキ限り兩殿下共獨逸御通過ノコトト考ヘ居ル次第ナルカ秩父宮殿下ニハ九月三日頃御入獨同十日頃御着英ノ御豫定ナルヤノ趣ナル處其

ノ間ノ御日程今日迄内定セル分折返シ電報アリタク尙往電  
第二七〇號御渡英ノ汽船ノ件大至急回電アリタシ

~~~~~

373

昭和12年8月27日

在独国武者小路大使より
広田外務大臣宛(電報)

秩父宮の訪独日程案について

別電

昭和十二年八月二十七日發在独国武者小路大
使より広田外務大臣宛第三三三三三號

右日程案

ベルリン 8月27日後發

本省 8月28日前着

第三三三三號(至急、極秘)

貴電第一七七號ニ關シ

一、秩父宮殿下獨逸訪問ニハ前田事務官、山口御附武官御
隨行申上タルコトト相成リ居レリ尙妃殿下ニ於カセラレ
テハ直接倫敦へ御出向ノ御豫定ナルヤニ拜承ス秩父宮殿
下御訪獨御旅程ハ別電ノ通り

二、御渡英ノ汽船ハ九月九日「ブレーメルハーフェン」出帆、
十日正午頃「サザンプトン」着ノ獨逸「ハンブルグ、ア

メリカ、ライン」所屬船「ハンザ」號ノ御豫定ナリ

三、獨逸御訪問ニ付テハ松平式部長官トモ打合ノ上獨逸政府
側トモ打合ヲ開始シ居ル處既ニ時日切迫シ居ルコトニモ
アリ御準備着々進捗ニ伴ヒ自然形トナリテ外部ニ現ハル
ルコト免レ難キ所ト存セラルルニ付テハ御訪獨ニ御決定
相成リタル御次第丈ケハ早目ニ御發表アラセラルル様御
配慮相煩度シ

(別電)

ベルリン 8月27日後發

本省 8月28日前着

第三三三三號(至急、極秘)

獨逸御訪問御旅程左ノ通り

九月三日午後又ハ四日午前御入獨「フリードリヒスハーフ
エン」御着

四日午後同地御發「ジュツセルドルフ」へ向ハセラル

五日午後同地御出發柏林へ向ハセラル

六日柏林御滞在

七日柏林御發「ライプチヒ」經由「バイロイト」へ向ハセ

ラル

八日同地御發「ニュルンベルグ」へ向ハセラル

午後同地發漢堡へ向ハセラル

九日同地御發「ブレーメルハーフェン」ニテ御乗船御渡英

~~~~~

374

昭和12年8月28日

広田外務大臣より  
在独国武者小路大使宛(電報)

### 秩父宮のニュルンベルク訪問を回避方訓令

本省 8月28日後3時30分發

第一八一號(極祕、大至急)

貴電第三三三二號ニ關シ

一、秩父宮殿下御旅程中ニ「ニュルンベルグ」ヲ含ミ居ルハ  
往電第一六七號末尾ニ申進メノ趣旨ニ反シ當方ノ甚タ意  
外トスル所ニシテ右ハ此際飽ク迄避ケ度キニ付至急同地  
ヲ削除セル新御旅程作成ノ上電報アリタシ

二、御日程ハ御警衛等ノ關係上本邦新聞ニモ發表方差控ヘシ  
メ居ル次第ナルニ付貴方ニ於テモ之カ詳細ノ發表ハ差控  
ヘラレタク單ニ御渡英御歸朝ノ途次獨逸御通過遊ハサル  
ル趣旨ヲ發表スル程度ニ止メラルル様致シタシ

瑞西へ轉電シ松平式部長官へ轉報セシメラレタシ

~~~~~

375

昭和12年8月28日

在独国武者小路大使より
広田外務大臣宛(電報)

秩父宮とヒトラーの会見地をニュルンベルク

以外に変更することは不可能の旨報告

ベルリン 8月28日後發

本省 8月29日前着

第三四〇號(至急、極祕)

貴電第一八一號ニ關シ

秩父宮殿下「ヒ」總統御會見ニ付テハ貴電第一六七號末尾
御來示ノ趣旨ニ從ヒ「ニュルンベルグ」大會以前二例ヘハ
伯林等ニテ取行ハセラルル様折角獨逸政府側ト交渉セルモ
「ヒ」總統ハ同大會準備ノ爲大會前ニ既ニ「ニュルンベル
グ」地方ニ在リ又大會直前ハ演說起草等ノ爲何人トモ面會
不可能ノ實情ナル爲已ムヲ得ス九月八日「ニュルンベルグ」
ニテ「ヒ」總統ニ御會見ノコトニ折合ヒタル經緯ナルニ付
右事情御諒察ノ上前記貴電末段ノ趣旨ニ充分副ヒ得サリシ
次第枉ケテ御承認仰度シ

尙本年ヨリハ「ニュルンベルグ」大會ハ獨逸ノ國家的式典ト認メラレ從來之ニ參列セサリシ各國ノ大使、公使モ之ヲ參觀スル由ナリ

~~~~~

376

昭和12年8月29日

広田外務大臣より  
在独国武者小路大使宛(電報)

秩父宮のニュルンベルク立寄りは時宜に適せず勅許を得ていないためヒトラーとはベルリンで会見するよう日程変更方訓令

本省 8月29日前0時55分発

第一八三號(大至急、館長符號扱)

先刻貴使電話ノ次第ハ宮内省側トモ打合セタル處今次殿下獨國御通過ノ件ハ宮内省ニ於テ當省トモ打合セノ上「ニュルンベルグ」御立寄ハ時宜ニ適セスト認メ同地ニハ御立寄リナキコトシテ勅裁ヲ得タル次第モアリ今更此ノ點ニ付變更方奏請スルコトハ至難ニシテ今回同地御立寄ハ實現不可能ナル次第ナリ

從テ殿下カ「ヒトラー」總統ニ御會見遊ハサル様取計フ場合ニハ九月三日瑞西御出發伯林ニ御直行ノ上四日又ハ五

日ニ「ヒ」總統ト御會談遊ハサルコトニ取計ハルコト然ルヘシ

尙「ニュルンベルグ」御立寄ヲ削除セル新御旅程早目ニ電報アリタシ

~~~~~

377

昭和12年8月29日

広田外務大臣より
在独国武者小路大使宛(電報)

ヒトラーとの会見地が変更不可能の場合は秩父宮の訪独中止もやむなき旨通報

本省 8月29日後2時40分発

第一八四號(大至急、館長符號扱)

貴電第三四〇號ニ關シ

往電第一八三號ニヨリ御承知ノ通りノ事情ニ依リ此ノ際「ニュルンベルグ」御立寄ハ全ク實現不可能ナル次第ニシテ強キテ右様取計フ場合ニハ獨逸御通過ノ計畫全部ノ取止メトナルヤモ計リ難キ情勢ニ在リ從テ「ヒ」總統ノ都合モ有之ヘキモ同總統ト御會見方取計フ場合ニハ前電申進ノ通り九月四日又ハ五日中ニ御會見ノコトニ取計フノ外ナキ次第ナリ

~~~~~

昭和12年8月29日

在独国武者小路大使より  
広田外務大臣宛(電報)

## ヒトラーとの会見地は変更不可能につき対応

## 振り請訓

## 付記

昭和十二年八月二十九日発在独国大島大使館  
付武官より中島(鉄蔵)参謀本部総務部長宛電

報第一三九号

秩父宮のニュルンベルク立寄りハナチス党大  
会出席のためではない旨報告

ベルリン 8月29日後発

本省 8月30日前着

## 第三四三號(大至急、極秘)

貴電第一八三號及第一八四號ニ關シ

殿下御訪獨ノ御日取ハ九月四日ヨリ八日迄ノ四日間ノ外ナ

キ處 Numburg 大會ハ同月六日ヨリ十三日迄開催セラルル爲

「ヒ」總統ハ準備ノ爲夫レ以前同地ニ在リ)殿下ノ獨逸御

滞在ハ丁度 Numburg 大會ノ時期ト重ナル譯ニテ從テ「ヒ」

總統トノ御會見地ヲ Numburg 以外ノ場所トシ右場所ヘ

「ヒ」總統ノ出向ヲ求ムルコトハ事實上全然不可能ナル事

情ニアリ依テ此ノ際 Numburg 御立寄ヲ御取止ニナルコト

ハ即チ「ヒ」總統トノ御會見ヲ避ケラレ獨逸國內他ノ地方

ノミヲ御旅行遊ハスコトニ歸着シ斯ノ如キハ對獨關係上如

何ニ説明ヲ加フルモ極メテ面白カラサル結果ヲ招來スルノ

外ナカルヘク要スルニ殿下御訪獨豫定日ト Numburg 大會

期日ト力重ナル以上今トナリテハ「ヒ」總統ト御會見ノ爲

Numburg ニ御立寄遊ハスカ或ハ御健康等ノ理由ニテ全然獨

逸御訪問ヲ御取止遊ハスカノ二案ノ中何レカラ選フノ外ナ

キ羽目ニ立至リ右以外當方ニ於テ何等打開策ヲ攻究シ得サ

ルコトハ如何ニモ残念トハ存スルモ事情御諒察ノ上御至急

何分ノ儀御回訓相煩度シ

## (付記)

ベルリン 8月29日後7時20分発

参謀本部 8月30日前7時17分着

第一三九號

第二部長へ

貴電敬承、大使ト協議セルカ殿下今次ノ獨國御通過ニ關シ

御旅程作製ニ就テ大使館ハ全然黨大會御出テヲ提議シアラ

(欄外記入)

ス只總統トノ御會見ヲ希望セルニ 殿下御訪獨間總統ハ「ニュルンベルグ」ニ在ル爲獨國外務省カ同地ヲ御會見地ト指定セルモノナリ内地ニテ懸念アル以上御會見地變更ハ當方ニテモ望ムトコロナルモ御日程及總統ノ行動豫定ノ關係上此事ハ全ク不可能ニ屬ス

「ニュルンベルグ」御出テハ全ク總統トノ御會見ノ爲ニシテ黨大會ニ御出テノ爲ニアラサルヲ以テ此趣旨ヲ宮内外務兩省ニ説明シ同意セシメラレンコトヲ希望ス尙本件ニ關シ既ニ大使ヨリ電第三四三號ヲ以テ外務大臣宛意見具申セラレアルニ付參照セラレ度

(欄外記入)

八月三十日馬奈木中佐ヨリ受

~~~~~

379

昭和12年8月30日 広田外務大臣より
在独国武者小路大使宛(電報)

ナチス党大会開催中の秩父宮ニュルンベルク

立寄りには絶対不可につき日程調整方訓令

本省 8月30日後8時15分発

第一八五號(大至急、極秘)
貴電第三四三號ニ關シ

黨大會開催中ニ殿下カ「ニュルンベルグ」ニ御立寄り遊ハサルコトハ絶対不可ニシテ右様取計フコトトナラハ獨逸御通過ハ全部御取止メトスルノ外ナキニ意見一致セル處大會開催前例ハ九月四日ニ「ニュルンベルグ」ヘ御立寄り遊ハサルコトトスレハ「ヒ」總統トシテモ御會談ノ時間ノ都合ハツクモノト考ヘラレ又右困難ナル場合ニハ殿下御一行側トモ打合セヲ要スル次第ナルモ殿下ノ瑞西御出立ヲ一兩日繰上ケノ上三日又ハ四日午前中位ニ伯林ニ於テ「ヒ」總統ト御會見遊ハサルコトニ取計フコトモ一案ト思考セラ

ル
就テハ以上二案ノ何レカニ是非共取極メ方極力御努力相成リ結果電報アリタシ

瑞西ヘ轉電シ松平式部長官ヘ適宜ノ方法ニ依リ轉報セシメラレタシ

~~~~~

380

昭和12年8月30日 在スイス天羽公使より  
広田外務大臣宛(電報)

ニュルンベルク立寄りをめぐる松平式部長官

および天羽公使の秩父宮への説明振り報告

ベルン 8月30日後発

本省 8月31日前着

(館長符號)

在獨大使ヨリノ電報ニ依リ在獨大使發大臣宛第三四〇號及第三四三號竝ニ大臣發在獨大使宛第一八三號及一八四號ヲ松平式部長官ニ轉報(大臣發在獨大使宛第一八一號ハ廿九日既ニ轉報濟)直ニ殿下ニ上申セラレ次デ本使同長官ト共ニ拜謁仰付ケラレタル處長官ハ此ノ際殿下ガ進ンデ獨逸御通過ヲ御取止遊バサルル様言上シ本使ハ御下問ニ應ジテ實際情勢ヲ御説明申上ゲ獨逸御通過ハ政治的の見地ヨリモ機微ナル考慮ヲ加フル必要アル所以ヲ言上セリ爲念

~~~~~

381

昭和12年8月30日

在獨国武者小路大使より
広田外務大臣宛(電報)

党大会終了後にニュルンベルクで秩父宮がヒ
トラーと会見する新日程案につき請訓

ベルリン 8月30日後発

本省 8月31日前着

第三四七號(大至急)

貴電第一八五號ニ關シ

「レ」總統ハNurnberg大會直前數日間ハ大會ノ演說起案ノ爲思索ヲ練ルヲ常トシ何人トモ面會ヲ避クル由ニテ右貴電御來示ノ二案ハ重ネテ獨逸側トモ交渉シタルモ結局都合付カス現狀ノ儘ニテハ往電第三四三號申進ノ通り八日Nurnbergニテ御會見遊ハスカ御訪獨御取止ノ案以外ニハ妙案モ無之當方トシテモ種々苦慮シ居リタル處本三十日在漢堡江戶總領事ヨリノ電話ニ依レハ御乗船「ハンザ」號ハ紐育碇泊中乗組員中ニ熱病患者發生(内一名「チブス」ト確定)セル旨通報アリ右ニ依リ何レニセヨ九日「ハンザ」號ニテノ御渡英ハ不可能ニ陥リタルニ依リ茲ニ未タ御一行トハ打合了セサルモ若シ御都合サヘ許スニ於テハNurnberg大會終了(十二日)ノ翌日即チ十三日ニハ「ヒ」總統親臨ノ下ニ國防軍ノ模範演習アル筈ニ付同日「ヒ」總統ト御會見遊ハサレ十四日「ブレーメルハーフェン」出帆ノ獨逸北「ロイド」汽船會社船「オイロパ」號ニテ御渡英遊ハスコトト

セハ如何トノ一案ヲ得タリ事情前記ノ通りニテ當方現地ノ事情上實行可能ナル案ハ右以外見當ラサルニ付テハ此ノ邊充分御諒察ノ上何分ノ儀大至急御回電ヲ請フ

~~~~~

382

昭和12年9月1日

広田外務大臣より  
(在独国武者小路大使宛(電報))

党大会終了後にニュルンベルクで秩父宮がヒ  
トラーと会見する新日程案につき勅許を得た  
旨通報

付記

昭和十二年十月九日、参謀本部第二部作成

「秩父宮御訪獨ト日獨關係」

本省 9月1日後2時発

第一八七號(至急、館長符號扱)

貴電第三四七號ニ關シ

右貴案ハ屢次往電訓令ノ趣旨ト合致セサルモノアルノミナ  
ラス餘リ適當ナル案トハ認メラレサルモ事態玆マテ進ミ乍  
ラ今更獨逸御通過ヲ全部御取止メトスルニ於テハ獨逸側ニ  
及ホスヘキ影響モ頗ル面白カラスト思料セラレタルニヨリ  
宮内省トモ協議ノ上結局貴案ノ通り十三日「ニュルンベル

グ」ニ於テ「ヒトラー」總統ト御會見遊ハサルルコトニ勅  
裁濟ト相成レリ尤モ右ハ殿下御健康ノ如何ニ依ルコトハ勿  
論ノ義ナリ此點ニ關シテハ陛下ヨリ重ネテ御注意ノ次第モ  
アリタル趣ナルニ付テハ此上トモ充分ニ注意ヲ拂ハレタク  
貴電第三三三三號御旅程ハ御立寄りノ箇所多過キルカ如ク且  
其順序モ複雑ノ嫌アリ御健康上ヨリモ懸念セラルル次第ナ  
ルニ付更ニ松平式部長官トモ御打合せノ上新御旅程ヲ作成  
セラレ電報アリタシ

尙往電第一七三號申進ノ通り獨逸側ノ接待振等萬事目立ツ  
カ如キコトハ此ノ際避クルノ必要アルニ付斯カルコト無キ  
様篤ト御注意相成度シ

(付記)

昭和十二年十月九日

秩父宮御訪獨ト日獨關係

参謀本部第二部

秩父宮殿下御訪獨ニ關シテハ我カ新聞ノ報スル所誠ニ少ク  
其ノ御動靜ヲ明ニスルヲ得サリシカ獨逸新聞ノ報スル御模  
様ノ概要左ノ如シ

一、秩父宮殿下ニハ九月六日御入獨「フリートリヒスハーフエン」ニ御到着遊ハサレ特別仕立ノ飛行機ニテ七日「デュツセルドルフ」ニ御着、翌日伯林ニ向ハセラレ午後六時「テムペルホーフ」空港ニ御着陸遊ハサル

飛行場ニハ御出迎ノ爲柳井參事官、陸軍武官大島少將、海軍武官小島中佐ヲ始メ大使館附文武官、「ボルチエ」參事官、「フォン、シュミーデン」博士、「ウーデット」少將、日獨協會長「フェルスター」提督尙獨國日本人俱樂部團長等多數ノ日獨名士參列セリ伯林在住日本人ノ御出迎ハ勿論ナリ

殿下ニハ武者公路大使、參事官「シュトラツハウイツ」<sup>(小カ)</sup>伯竝宣傳省極東部長ヲ從ハサセラレ御着陸遊ハサル

親衛隊儀仗ノ捧銃ノ敬禮ヲ受ケサセラレタル後感激ニ滿チタル御出迎ノ邦人ノ最敬禮ニ御會釋ヲ賜ヒ直チ二三日間ノ御宿所タル「アドロン、ホテル」ニ向ハセラレタリ  
二、九月九日殿下御歡迎ノ爲日獨協會及獨國日本人俱樂部主催トナリ「エスプラナーデ、ホテル」ニ於テ茶會ヲ催サル。生花ト日獨國旗ニ飾ラレタル廣間ニハ多數ノ日獨官民列席シ席上日獨協會長退役少將「フェルスター」及日

本人俱樂部團長ハ御歡迎ノ辭ヲ述フ

參列者ニハ多數ノ在留邦人、獨逸官廳、國防軍、黨ノ各代表者竝工業、經濟、學界ノ名士アリ三ツノ銅鑼ノ音ヲ以テ殿下ノ御來場ヲ告クルヤ列席者一同起立シ最敬禮ノ中ニ殿下ニハ御會釋ヲ給ヒツツ着御遊ハサル、茶ノ時間ノ間、殿下ノ御左ニ「レーダー」海軍大將御右ニ武者小路大使夫人着席ス。來賓中ニハ武者小路子、陸海軍武官、大使館員及「ボルチエ」參事官、「フォン、シュミーデン」、「リツベントロップ」事務所ノ「フォンラウコー」博士等アリ御歡談ノ中ニ午後ノ時ヲ過シ給ヒ御入場ノ際ト同様諸員敬禮ノ中ニ御退出遊ハサル

三、九月十三日秩父宮殿下ニハ「ニュルンベルグ」ニ御到着正午城内ニ於テ「ヒ」總統ノ歡迎ヲ受ケサセラル。「ヒ」總統ハ城内帝王ノ間ニ宴ヲ設ケ御歡迎ノ敬意ヲ表シ奉ル。席上ニハ武者小路大使、大島少將、小島中佐、侍從前田伯、古田參事官及山口大尉列席セリ。獨逸側ハ「ゲーリング」大將、黨首代理「ルドルフヘス」、「ブロンベルグ」元帥、「フライヘルフォンノイラート」博士、親衛隊長「ヒムラー」、參謀總長「ルツチエ」、「ローゼンベルグ」、

「レイ」博士、「デイトリツヒ」博士、「ボールコン」、騎兵大將「フォン、エツプ」、青年指導者「バルドゥール、フォン、シラツハ」、「リツペントロツプ」大使、地方長官「アドルフウアグナー」、「ユーリウスストライヘル」、「ボーレ」、大臣「ジーベルト」、内閣書記官長「マイスナー」、「ラムメルス」、「フォンマツケンゼン」、軍團長「ゼツプ、デイトリツヒ」、「スポーツ」指導者「フォンチヤムマー」、「オステン」、總監「トート」博士、退職大使「フォレンチュ」、公使「フォンビュローシウワンテ」及「ビスマーク」侯爵、市長「リーベル」、警察長官「マルチーン」ナリ

總統ノ周圍ノ諸氏ハ軍集團長「ブリツユクネル」、旅團長「シヤウプ」、「ウイデマン」大尉、「ホスバツハ」大佐及「ボーデンシヤツツ」大佐ナリ

御會食終了後殿下ニハ國防軍ノ觀兵式御臨席ノ爲「ツイツペリン」廣場ニ向ハセラル。同日夕殿下ニハ飛行機ニテ「ハンブルグ」ヘ向ハセラル

四、十三日夜九時殿下ニハ「ニュルンベルグ」ヨリ「ハンブルグ」空港ニ御到着遊ハサル

江戸總領事及「ハンブルグ」ノ諸名士ノ御出迎ヲ受ケサセラレ「アトランチックホテル」ニ入ラセラレ小範圍ヲ召サレ御夕食ヲトラセラル

殿下ノ御言葉ニ於テ殿下カ御訪獨間到處ニテ受ケサセラレタル御歡迎就中「ヒットラー」及其ノ側近者ノ眞心カラノ御歡待ニ對シ御満足ノ意ヲ洩ラセラレ且ツカカル歡待ハ日獨ノ眞摯ナル親善關係ノ表徴ナルコトヲ認メサセラレタリ尙「ツイツペリン」廣場ヘ御臨場ノ際示サレタル深厚ナル敬意ニヨリ益々日獨親善ノ御印象ヲ深メサセラレタルコト竝新獨逸國防軍ノ實力ト軍紀ノ莊嚴ナル威容ニツキ讚美アラセラレタリ

五、十四日殿下ニハ「ハンブルグ」市内ヲ御一周遊ハサレ御買物ヲ遊ハサレ十時自動車ニテ「ブレーメン」港ニ向ハセラレタリ、該地ヨリ「ブレーメン」號ニ御乗船、英米ヲ經テ日本ヘノ御歸途ニツカセラル

六、天皇陛下ニハ畏クモ殿下ニ對スル獨國ノ歡待ニ對シ「ヒ」總統宛次ノ御親電ヲ打タセ給フ

朕ハ秩父宮訪獨間閣下及政府竝獨逸國民カ秩父宮ニ捧ケタル親愛ナル歡待ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表ス

朕ハ茲ニ此訪問カ既往兩國ノ親善關係ヲ益々向上強化ス  
ルコトニ寄與シタルコトヲ慶賀ス

右ハ獨逸紙「D・A・Z」ニ記載セラレタル殿下ノ御動靜  
ニシテ其論調ヲ綜合スルニ御訪問ニ關シテハ目立たサル如  
ク小活字ヲ用ヒ單ニ殿下ノ御日程、御會食ノ御模様、其列  
席者等ヲ記載スルノミニシテ兩國ノ親善關係或ハ政治的關  
係ニ關スル論調ヲ避ケントスル傾向ヲ見受ケラル

此ノ事實ハ從來ノ日獨關係特ニ日獨親善ヲ信條トセル「ヒ  
ットラー」以下獨國要人ノ態度ヨリ見テ全ク想像シ得サル  
所ニシテ武者小路大使ノ報告ニモ見ユル如ク「ニユルンベ  
ルグ」ニ於ケル殿下ト「ヒ」總統以下ノ要人トノ御會見ニ  
於テ「ヒ」總統カ我皇室ニ對スル畏敬ト懍仰ノ念ニ滿チ日  
獨提携ノ運命的現象ナルヲ說キ親善強化ノ要ヲ強調セル感  
激的場面ト相矛盾スルヲ感知スルモノナリ一方我カ國ノ新  
聞論調ハ秩父宮殿下御訪獨ニ關シ報道スル所極メテ尠少ナ  
ルノミナラス宮内省ノ發表ニヨレハ殿下ハ英國ヲ御訪問遊  
ハサルル途中獨逸ヲ御通過遊ハス如ク記載セラレ殊更ニ獨  
逸御訪問ト稱スルヲ憚レリ

殿下ノ御訪獨カ獨國官民ニ與ヘタル實際的效果竝本事變ニ

處スル重要ナル國策遂行上ノ手段トシテ匿レタル貢獻アリ  
シニ拘ラス之ヲ取扱フニ恰モ浮腫ニ觸ルカ如キ態度ノ因由  
那邊ニ存スルヤ國民モ齊シク疑念ヲ有スル所ナルヘシ  
若シ夫レ兩國新聞カ斯クノ如キ態度ヲ執ラサルヲ得サル因  
由我カ國內ニ存スルトセハ此ノ影響カ獨國官民ニ與フル心  
理的所作微妙ナルモノアリト謂フヘク此ノ思想的根源ヲ驅  
除セサルニ於テハ日獨提携ノ將來ニモ決シテ好成果ヲ齎ス  
ト謂ヒ得サルヲ遺憾トス

